

平成 22 年度第 2 回中野駅周辺まちづくり推進会議 議事要旨

1. 開催概要

日時：平成 23 年 3 月 23 日（水） 午前 10 時～12 時

会場：中野区議会棟第 1・2 委員会室

出席：33 名

2. 質問・意見・事務局説明等

- 区) 我々は単なるビルの開発業者ではないので、区役所・サンプラザ地区に入れたい機能とあわせて、駅前広場と一体的に整備しながら周辺にいい影響を及ぼすことが必要である。現在のサンプラザを発展させてより多くの人に訪れてもらえる機能を持つことと、訪れた人がさらにまちの中に広がって回遊していけることが大事である。
- 区) 現在は、中野のまちに来たのではなく、サンプラザに来たという感じである。人々が中野のまちに来たと思えるような整備を考えていく必要がある。人の流れなどのインパクトを想定することによって周辺地域のポテンシャルも高めていける。中野のもつ個性を感じてもらい、環境・安全・文化といったまちの価値を周辺地域全体で実現できるまちづくりを考えていきたい。

委員 1

- サンプラザに行ってそのまま帰る、中野のまちに行ったという形になっていないのが現状である。多くの来訪者に中野のまちを感じてもらい、周辺の人々がうまくかかわっていける形になるとよい。また、区民の方々がいいものができたと親しみを持てるものができてほしい。
- なかなか意見が出ないのは、いつ頃までに、どういうものを、どういった手順で決めていくのかイメージが掴みにくいからではないか。やや急ぎすぎている感があるので熟慮する必要があるのではないか。
- 区) 今回、基本的な方向性を区議会に報告したところであり、平成 24 年 5 月に整備基本構想（案）を策定することとなっているが、具体的なスケジュールを示せる状況ではない。都市計画的な検討もこれからであり、みなさんからのご意見をいただきながら方向性の精度を高めていきたいと考えている。

委員 2

- 中野にたくさんの方が来るのはよいことだが、まちを回遊せず駅近くで用事を済ませて帰ってしまうのではないかと懸念している。南口のほうは具体的な計画もない。お客が増えるところか、近場の商店街からもお客が吸い取られるのではないかと懸念している。周辺のことを考えながら計画を進めてもらいたい。
- 現北口改札の整備では広場との段差を全てスロープにしたほうがよいと感じた。
- 区) 第 1 期整備段階では北口ガード下の横断歩道との関係で段差が生じているが、最終段階では横断歩道が不用となるため、広場との段差は解消される。
- 区) 駅地区整備に着手していることもあり、北口の話が中心になっているが、南口の二丁目、三丁目でも確実にまちづくりが進んでおり、北口に負けないくらいの要素を持っていると考えている。次回以降は南口について議論したい。

委員 3

- 今回の地震で人々の行動や価値観が変わるだろう。どうやってにぎわいをつくるかは重要な論点だが、変わっていく意識の面に配慮した計画が必要と感じている。
- 具体的な提案ではないが、一極集中は好ましくないなので、にぎわいを繋げる、広げるためには具体的にどうしたらよいか、真剣に考えていきたいと感じている。

委員 4

- 中で何をすることが重要である。にぎわいを広げるためには、周辺と馴染んだイベントをするのがよい。開業後のイベントを計画する主体を早めにつくるのがよい。
- 新しい建物は、なかの ZERO ホールのように外壁部分をガラス張りにするとよい。ダンスを趣味にする若者が練習のためにたくさん集まり、更に若者に評判のいいまちになると思う。

委員 5

- 地元でこの会議の P R と資料の報告を行いたいがないか。
- 区) 会議の資料は区議会に報告したものであり問題ない。

委員 6

- 中野のまちが将来どうあるべきかを真剣に考えないといけない。区役所・

サンプラザ地区はその中心であり、やり方次第でまち全体の雰囲気が変わってしまう。変えた人は責任を持つ必要がある。

- 警大跡地の都市計画公園と一体性を持たせるため、ホールなどを建設する場合には、1階部分の構造を工夫し、見通しを良くしてもらいたい。
- 区)現在のサンプラザ前面の広場は大きな役割を果たしているため大事にしていきたい。建物や広場の配置は、駅前広場や都市計画公園と連続性のある配置を考えていきたい。

委員 7

- にぎわいを実現するためには、周辺地域にないもの、地元にお金を落としてもらう仕組み、アクセスの便利さ、の3点が必要と考えている。
は例えば美術館が考えられる。はブロードウェイ・サンモール方面との回遊性が向上するような配置にすることが考えられる。は鷺宮など現在アクセスが不便な地域からも来てもらえるようなまちをつくるのが大事である。

委員 8

- にぎわいには一過性のものと常時のものがある。一過性のものは公共交通機関を使用するが、常時のものは自家用車を使用すると考えられる。これに対応する駐車場をつくってもらいたい、防災性の観点から駐車場は地下化するのがよい。
- 中野のまちに回遊性がないのは、地下道がないからである。駅周辺の回遊性を向上させるため、地下道の設置をお願いしたい。
- 区)調査の結果、現状では需給のバランスが取れていると把握している。今後の駅周辺の開発には駐車場の付置義務が課せられるため、開発により発生する駐車台数については、付置義務駐車場の設置により対応できると考えている。高齢社会を迎え、社会的弱者の方々が利用する駅に近い駐車場は、行政が責任をもって整備する必要がある。
- 駐車場が足りていることはなく、駐車場がないから中野に来ないというのが現状だと認識している。中野通りなどに駐停車させないためにも、駐車場をどうするかを考えていかないといけない。

委員 9

- 地下の開発は工事費が高く、管理・運用が難しいため賛成しかねる。そのお金があるなら、他のことに使ってほしい。

委員 10

- サンプラザでのコンサートには広い範囲から多くの人が集まっているが、

そこだけに来て帰ってしまうのが勿体ないように思う。食事ができる場所や憩えるような場所ができたらよいのではないか。

- 興行の内容については、子供主体のイベントなど、若い親子が楽しめるものも考えてほしい。
- 警大跡地に留学生の寮ができると、外国の人も集まってくる。羽田空港国際線ターミナルの江戸のまちのように、外国の人を呼び寄せる日本的なものを入れてはどうか。

委員 1 1

- ブロードウェイ・サンモールの古い街並みは、道幅が狭く土日になると歩くのが大変で、このままだと将来の安全性が心配である。駅前用地との換地などにより、ブロードウェイ・サンモールの再開発を検討する余地はあるのか。
- 区) ブロードウェイ・サンモールは、中野のなかでもにぎわいのある街並みであり、再開発によって、逆に商店街が静かになる怖さも持っている。現在のにぎわいを維持しながら防災性を高めていくことが、この地区のまちづくりだと考えている。

座長コメント

- 今回の資料は行政が作成したかための資料であり、これに魂を入れていくのは地元のみなさんだと思ってもらいたい。
- エリアマネジメントの話が重要だと思っている。長期的に見れば、行政と地元の方が一緒になってやらないとエリアマネジメントはできない。今年のどこかの段階で議論していきたいと考えている。
- 区) 出来るだけ多くの方のいろんな発想をお聞きしたい。区役所・サンプラザ地区は行政が深く関われる場所であり、ここをどうするかによって、中野駅周辺のまちがどうなるかが決まってくる。どういうものをつくり、どういうふうに管理・運営していくのか、一般からもっと幅広い自由な提案を求めて、いろんな素材を集めていきたい。まだ根本的な議論ができていない段階だと感じているので、次回以降にみなさんが議論できる素材を提供していきたい。